1　調査概要

本調査は、第3次大田市総合計画の策定にあたり、市民の大田市での生活に対する幸福度・満足度、生活の中での実感等について、地域のWell-being（地域幸福度）の向上を図る指標として、活用が推進されている「LWC指標」を用いたアンケート調査により把握し、計画の基本方針や施策の立案に向けた基礎資料とすることを目的とする。

調査期間	令和7年9月1日～10月18日
調査対象	①市内在住の18歳～39歳の男女に調査依頼 ②市報掲載二次元コードより全市民から回答受付
標本数	2,000人（調査依頼数）
抽出方法	住民基本台帳の対象年齢層から無作為抽出
調査方法	依頼状郵送配布・web回答
有効回収数	556件（依頼者回収率27.4%）

年代	回答数	割合
10代	1	0.2%
20代	216	38.8%
30代	288	51.8%
40代	25	4.5%
50代	16	2.9%
60代	9	1.6%
70代	1	0.2%
合計	556	100.0%

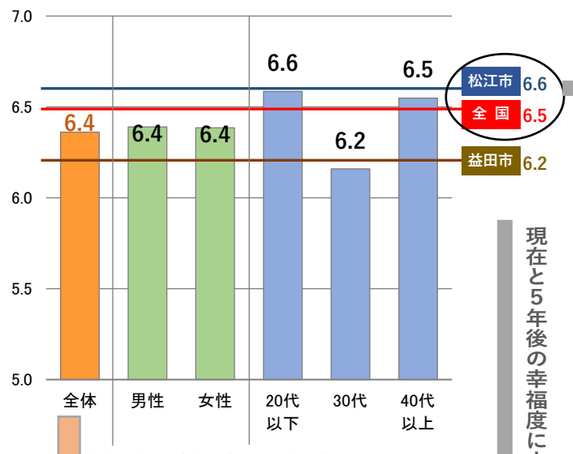
地区	回答数	構成比
中央	257	46.2%
東部	108	19.4%
西部	132	23.7%
三瓶	21	3.8%
高山	13	2.3%
温泉津	4	0.7%
仁摩	16	2.9%
その他	5	0.9%
合計	556	100.0%

2　調査結果

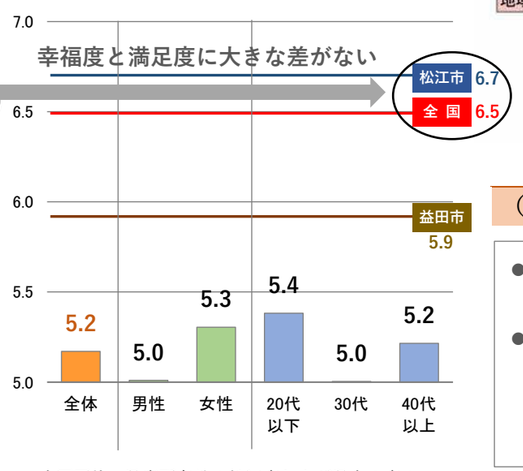
（1）大田市での生活に対する幸福度・満足度

●大田市での暮らし幸福度は6.4で全国平均6.5・松江市6.6より若干低く、益田市6.2を上回っている。
●一方で、暮らしの満足度は5.2で、全国平均6.5・松江市6.7を大きく下回っている。
⇒**「大田市での暮らしに幸せは感じているが、不満はある」**

①現在の暮らしの幸福度（10 点満点）



②現在の暮らしの満足度（10 点満点）

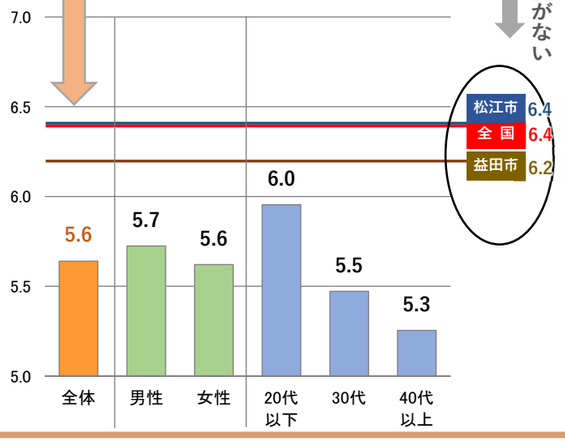


全国平均、県庁所在地の松江市および県内の市のうち、本市と人口規模が近い益田市を比較対象としている

現在と5年後の幸福度に大きな差がない

5 年後の幸福度が 0.8 減少

③5 年後の幸福度（10 点満点）



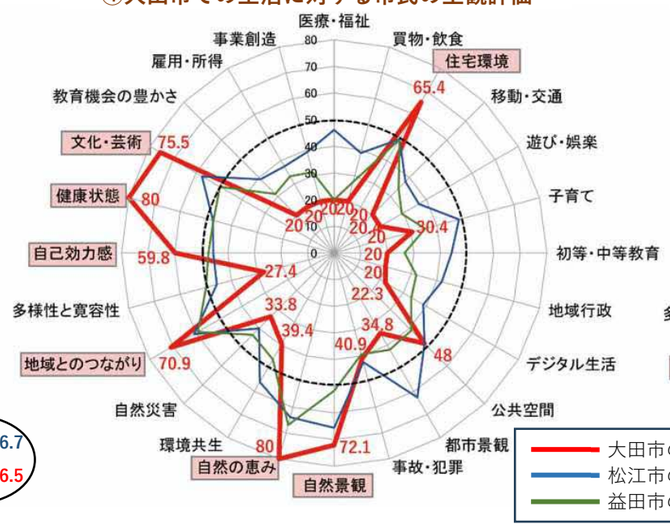
●大田市の幸福度は、5年後は現在より0.8減少。
●一方で、全国平均は0.1・松江市は0.2の減少、益田市では差がない。
⇒**大田市では、将来の生活を懸念し、現在より幸福度は下がると考える住民が多い**
⇒**松江市や益田市では、今と同じくらいの幸福が続いていると考える住民が多い**
⇒**将来の幸福度が下がらないよう、生活の満足度を向上させる必要がある**

●40代以上の減少幅が1.2と最も大きい。
●20代以下の減少幅は0.6と比較的小さい。

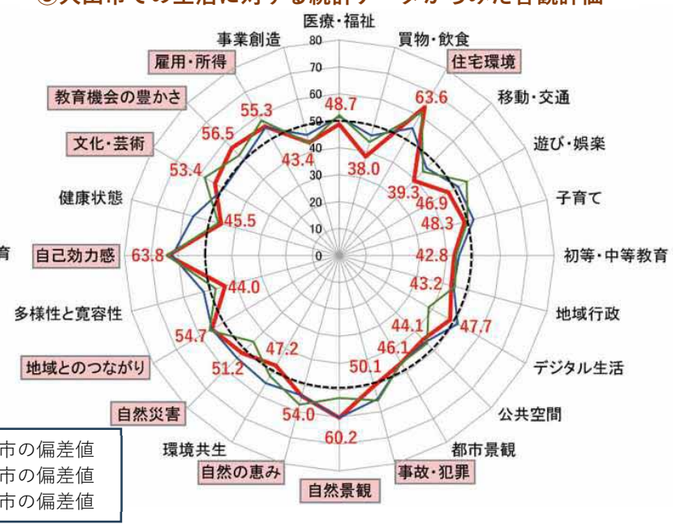
（2）大田市での生活に対する市民の主観評価と統計データからみた客観評価

【主観評価】市民の生活に対する評価を、同様の調査をした全国の自治体のデータを基に偏差値化したもの(偏差値50が全国平均)
●優れていると認識されているものは、**健康状態、自然、文化・芸術、地域とのつながり**等。一方で、**日常生活に関わるもの**（医療・福祉、買物、移動、娯楽）**と教育、雇用・事業創造、地域行政の評価が低い。**
【客観評価】全市町村を対象にデジタル庁が調査した様々な統計データを基に偏差値化したもの(偏差値50が全国平均)
●客観的に優れているものは、自己効力感、住宅環境、自然景観、教育機会の豊かさ、雇用・所得等。一方で、こちらも**日常生活に関わるもの**（買物、移動、娯楽）、**初等・中等教育、地域行政、事業創造**の**評価が低い。特に買い物・移動は松江市・益田市と比較しても大きな差**がみられる。

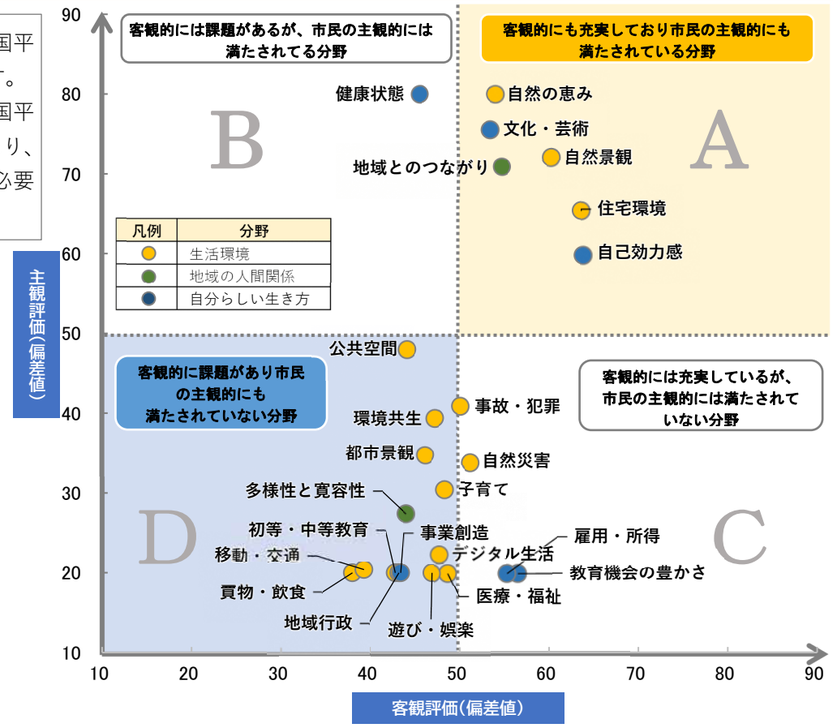
④大田市での生活に対する市民の主観評価



⑤大田市での生活に対する統計データからみた客観評価



（3）市民の主観評価と統計データからみた客観評価の相関図

- 【A 領域】にある因子は、客観的にも全国平均より優れ、市民の評価も高い因子です。
- 【D 領域】にある因子は、客観的にも全国平均より劣り、市民の評価も低い因子であり、住民の幸福度向上のために取り組みが必要と思われるものになります。

【A】優れている	住宅環境、自然景観、自然の恵み、地域とのつながり、自己効力感、文化・芸術
【B】	健康状態
【C】	事故・犯罪、自然災害、教育機会の豊かさ、雇用・所得
【D】課題が多い	医療・福祉、買物・飲食、移動・交通、遊び・娯楽、子育て、初等・中等教育、地域行政、デジタル生活、公共空間、都市景観、環境共生、多様性と寛容性、事業創造